

第1回白鷹郷土大学公開勉強会

テーマ 「アシナガバチとともに作る畑 アシナガバチ畑移住普及プロジェクトの試み」

講師 安藤竜二氏（アシナガバチ畑移住プロジェクト主宰）

日時 令和7年3月1日（土） 午後2時から午後4時まで

会場 白鷹町文化交流センター「あゆむ」文化伝承室

主催 白鷹郷土大学

後援 白鷹町史談会 置賜民俗学会 最上川229ネットワーク

内容

「ハチは刺すもの」と思われています。昭和20年代に生まれた私などは、野山で遊び回っているうちに何度か刺されて痛い目に遭ったりしています。中には、アナフィラキシーショックに見舞われ、命の危険を感じた方もいらっしゃるのではないかと思います。そうすると、「ハチは怖いもの」「ハチは駆除すべきもの」という思いが強くなってきます。

一方、ミツバチは人によって飼われ、甘い蜂蜜を供給してくれています。また、イチゴ、メロン、スイカなどの農作物の受粉には欠かせないものになっていることは広く知られています。

しかし、「アシナガバチ」や「スズメバチ」などが野菜を食い荒らすアオムシを駆除してくれることには気がつかないものです。

講師の安藤さんは、「ハチが刺すこと」に過剰に反応するあまり、「見つかりと駆除されてしまうアシナガバチを不憫に思い、無農薬畑で活躍してもらい益虫として復権させたいという思い」と「農薬を使わない農家さんがアシナガバチのおかげで少しでも害虫駆除が楽になれば、日本にもオーガニックの農作物が増える一助になるのではと思った」ことから、「アシナガバチ畑移住プロジェクト」という個人の活動を立ち上げました（安藤竜二 『ハチ暮らし入門』2023年 農山魚村文化協会 59ページ）。

安藤家はお父さんの代に専業の養蜂家となり、安藤さんも高校卒業後に家業に従事していましたが、次第にミツバチが巣を作るために分泌する「蜜ろう」に心を奪われ、そのキャンドル作りの工房を立ち上げて独立しました。現在でも、キャンドル作りの合間を縫って、弟さんが継がれた養蜂業を手伝い、依頼されたハチの駆除も行っています。そのような形で1年中ハチと関わる生業をなさっていらっしゃいます。

そのような視点から「ハチとともに暮らす」生活のあり方、その可能性を皆さんとともに学んでゆきたいと考えています。

白鷹郷土大学代表 守谷英一

参加申し込み

参加料、資料代はいただきません。ただし会場準備の都合で参加人数を把握したいと存じます。参加希望の方は2月18日まで守谷英一へお申し込みください。

担当 守谷英一

電話 090-8255-7763

メール moriya-eiichi@nifty.com